

物の見方を

一年八組 国枝まり

自分の考えに人から指摘をされて、他の考えに気づくということは、誰しも経験したことがあるだろう。

左の図を見てみると、馬に乗った人々、テントを張っている人がいる。しかし、本当にこの人たちしかないのだ



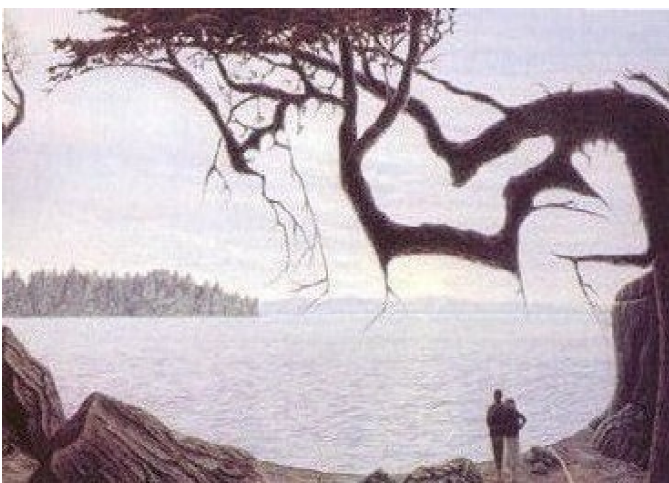
ろうか。川の向こう岸を見てみよう。おおかみが数匹いるのが分かるだろう。小山のところにおおかみの顔が、奥に二つ、手前に一つある。そして、川のすぐそばに、おおかみが七匹かたまっている。しかも、おおかみがいるのは、それだけではない。

人々のいるところに、あと一匹隠れている。

一つの絵を見ても、中心に見る物を変えるだけで、他の絵に見えてくるというようなことは、日常生活でもよくあることだ。カ○ビのポテトチップスのキャラクターの口のところを、鼻だと見る人もいる。

次に、左の図ではどうだろう。この

中には三人の人がいる。二人はすぐに分かるだろう。海を眺める男女がいる。三人目はどこにいるのか。目を遠ざけてみよう。すると、赤ちゃんがいるのが分かるだろう。このように、距離を変えると見えてくる物が違う、というこ



とは、日常生活でもあり得る。窓を遠くから見ると、開いているように見えるのに、近づいて見ると閉まっていたということはよくある。

このように、中心に見る物や、距離、角度を変えると、見えてくる物が違う。だから、物を見るときは、一面だけでなく、他の面も見えてみるのはどうだろうか。

